

平成26年7月の地震活動及び火山活動について

平成26年7月の地震活動及び火山活動について解説します。

○ [地震活動]

・ 全国の地震活動

7月5日07時42分に岩手県沖の深さ49kmでM5.9の地震が発生し、岩手県宮古市で最大震度5弱を観測しました。

7月8日18時05分に胆振地方中東部の深さ3kmでM5.6の地震が発生し、北海道の白老町で最大震度5弱を観測しました。

7月12日04時22分に福島県沖でM7.0の地震が発生し、宮城県の石巻市鮎川で17cmなど、岩手県から福島県にかけての沿岸で津波を観測しました。

全国で震度3以上を観測した地震の回数は16回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は120回でした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

・ 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震活動

（平成26年7月の活動）

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなっているものの、最大震度4以上を観測した地震が5回、震度1以上を観測した地震が76回発生するなど、引き続き岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生しました。

国土地理院のGNSS連続観測結果によると、引き続き東北地方から関東・中部地方の広い範囲で、徐々に小さくなってきてはいますが、余効変動と考えられる東向きの地殻変動が観測されています。

（余震の見通しについて）

余震活動は全体的には次第に低下してきているものの、最近の変化は以前に比べゆるやかになってきており、沿岸に近い領域を中心に、本震発生以前に比べて活発な状態が当分の間継続すると考えられます。

M7.0以上の大きな余震が発生する可能性は低くなっていますが、今回の福島県沖の地震（M7.0）のように大きな余震が、まれに発生することがあり、最大震度5弱以上の強い揺れや、海域で発生した場合には津波が発生する可能性があります。また、比較的小さな余震でも沿岸域や陸域で発生すると震源付近では強い揺れになることがあります。

なお、2004年12月にモーメントマグニチュード（Mw）9.1の地震が発生したインドネシア、スマトラ島北部西方沖では、7年以上経過した2012年にもMw8.6の地震が発生するなど、震源域及びその周辺で長期にわたって余震活動が継続しています。

(防災上の留意事項)

引き続き余震による強い揺れに警戒してください。また、これまでの強い揺れのために地盤がゆるんでいる地域では、降雨や余震による土砂災害の発生する危険性が高まっていますので、併せて警戒してください。

また、海域で大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

○ 【火山活動】

口永良部島では、8月3日（期間外）に新岳付近で噴火が発生しました。新岳火口から概ね2kmの範囲で噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要なことから、同日、火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から3（入山規制）に引き上げました。また、マグマが関与した噴火が発生した場合、火砕流にも警戒が必要なことから、7日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替えました。

桜島では、爆発的噴火が発生するなど活発な噴火活動が継続しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しており、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し新たに形成された陸地の拡大が確認されています。西之島の中心から概ね6km以内の範囲では噴火に警戒してください。

草津白根山では、3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加するなど、火山活動の活発化を示すデータが引き続き観測されています。湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。また、新燃岳に隣接する韓国岳周辺では、2014年2月頃から地震がわずかに増加しています。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しており、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島では、17日に小規模な噴火が発生しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しており、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

伊豆大島では、7月23日から29日にかけて、島北部を震源とする火山性地震が増加しましたが、その他の観測では、活動状態の変化を示すデータはみられず、噴火の兆候は認められません。

阿蘇山では、中岳第一火口の湯だまりが火口底から消失しているのを確認しました。中岳第一火口の火山活動は、わずかに高まった状態で経過し、今後の火山活動の推移には注意する必要がありますが、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあつ

ては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGNSSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成26年7月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2014-goudou0808.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、「地震・火山月報（防災編）」平成26年7月号をご覧ください。

注5：平成26年8月の地震活動及び火山活動については、平成26年9月8日に発表の予定です。